

23rd 全国曹洞宗青年会

# sousei

189  
2020.05



## 特集 これからの梅花流

- ・東日本大震災への「慰霊の想い」
- ・世界仏教徒青年連盟事業報告（村山博雅師）
- ・映画『典座―TENZO―』展開報告
- ・『過疎』と向き合う」連載第4回



# 特集「これからの梅花流」

## 座談会

### 若き師範が考える梅花流のありかた



梅花流詠讃歌（以下、梅花流）は曹洞宗の布教における大事な柱です。しかし、その梅花流布教のあり方も時代に合わせて多様化が求められているのではないかと。全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）では「これからの梅花流」と題し、梅花流を含めた仏教讃歌のこれからのあり方について様々な観点から考える特集を組むことといたしました。

この度、4人の曹洞宗梅花流師範に集まっていただき、これからの梅花流についてそれぞれが考える展望を語っていただきました。

#### 減少する梅花講員

「近年減少傾向にある講員の人数ですが、その原因は何だと思いますか？」

清水道広特派師範（以下清水師）／昔と比べて生活が豊かになり、物を選べる時代になりました。その中でご供養する、お寺に行くという事も実は選択肢の中の一つに過ぎなくなっているのだと思います。

山田太志特派師範（以下山田師）／自宅に仏壇が無い家も増え、仏様を念頭に置きながら生活をする習慣がこの30年あまりで急速に国民の中から薄れています。その一つの現れとして梅花流を取り組んでみたい方が少なくなっ

きていると感じます。

藤田清隆師範（以下藤田師）／人生100年時代を掲げる現代は、昔に比べて誰もが忙しく生活していますよね。個人の趣味趣向にあわせた各種カルチャースクールが開催されていることで、誰かに誘われて始める人よりも、個人が選ぶ時代という印象です。梅花流も多くの習い事の一つとして認識されていることが一番の原因なのかもしれないですね。



清水道広特派師範／昭和53年生まれ。平成13年から大本山永平寺で安居し、現在は秋田県正法院住職を務めている。平成31年より梅花流特派師範として全国で活躍されている。

ながいしんじゅ  
永井真壽師範（以下永井師）／今は少  
子高齢化と、生活における選択肢が多  
様化してしまつて、梅花流と同じよう  
に、茶道や華道などの団体メンバーも  
減少していますよね。一度は入ったけ  
れども、続けてくれるとは限りませ  
し。その人の中で、なにか心の琴線に  
触れた感動体験がないと梅花流詠讚歌  
を続けてくれないと思います。

—現在講員さんを増やす為にご自坊等  
で行っていることはありますか？

藤田師／私の教区では葬儀の時に追弔  
御和讃をお唱えする事が多く、講員で  
はなくても追弔御和讃をお唱え出来る  
参列者が非常に多いです。一般の方が  
耳にする機会をいかに増やしていくか  
が重要かもしれませんね。また自坊で  
は毎年お盆の施食会の際、特派師範の  
先生をお呼びして法話と共に御和讃の  
講習をしています。法要中に一緒にお  
唱えし、梅花流を通して共に供養を捧  
げた実体験を作る。これが始めるきつ  
かけとなればと思つています。

清水師／私も葬儀の際、御詠歌をお唱  
えしています。一人でお唱えするの  
ですが、だんだん根付いてきまして、最

近では葬儀で詠讚歌をお唱えするのが  
当然というところまで浸透させること  
ができました。自分の研鑽を積む、と  
にかく続けていく。そこで梅花流に関  
心を持つてくれた方、自分もやってみ  
ようとと思った方を逃がさない。それが  
講員さん獲得の手段なのだと思います。

山田師／葬儀や法事でお唱えするのは  
発信の場としてとても力を持っている  
と感じます。実際そこでお唱えを聞い  
て始められる方も多いと聞きます。

清水師／お唱えの布教とお話の布教、  
この二段構えはとても優れた布教手段  
だと思つています。そして寺族さんも布教  
する力を持つていて、講員さんを増や  
していく一番の原動力になると思いま  
す。

永井師／私も葬儀や法事の際には必ず  
詠讚歌を入れるようにし、詠え手の心  
が伝わる、聞き手が感動するお唱えに  
なるよう心掛けています。

また私のお寺では母が梅花流を教え、  
私は習字教室を開いています。子ども  
達は習字、ご年配の方々は梅花流を習  
いにお寺へ足を運んで下さいます。そ  
れらをきっかけにお寺へ来て、仲間を



お寺で梅花のコンサート

つくる場として活用していただければと思っっています。

山田師／私の地域では新聞広告を出したり、ホームページを設置したりして、一般の方も自由に参加できる宗務所梅花大会を開催しました。詠讚歌から始まり、坐禅指導、歎仏と僧侶が自分たちの力で出来る事を行いました。また、文字があれば飽きずに観てくれると思いい、プロジェクトを使って詠讚歌奉詠の時は歌詞を、声明の時も漢詩と読み下し文を映しました。そのかいあつてかなり好評で、大会の後、新しく入講された方もいました。その時、出来る事は何でもやる事が大事だと感じました。

ただひたすらに

「これから梅花流を行っていく上でやりたい事、方針や展望はありますか？」

清水師／最近考えているのはプロジェ

クションマッピングを用いたイベントですね。例えば正面に詠讚歌の歌詞を映し出す、首座法戦式「梁の武帝、達磨大師に問う」の文言、武帝、達磨大師を映し出すなど視覚的に訴えていくのも一つの手段だと思います。そこから講員さんの獲得に繋がるかもしれません。

山田師／私のお寺では師範さんにお手伝いをいただき、コンサート形式で梅花流を聞いてもらう取り組みをしたことが何度かあります。そこから何人かは体験クラスに入ってくれますが、伝え方に不足もあり、「法具を使わず三宝御和讃など数曲を楽しく歌えれば良い」で終わってしまい、正式な講員にならない方が大半です。私としてもガツカ

山田太彦特派師範／昭和49年生まれ。平成8年から大本山總持寺で安居し、現在は静岡県常林寺住職を務めている。平成31年より梅花流特派師範として全国で活躍されている。



りすることはありますが、挫けず継続していく事が重要だと考えています。講員さんも減少している状況ですが、人数ではないところに梅花流の本当の力があると思いますし、少なくともこれからといって梅花講を辞める理由にはいけないと思います。

また体が不自由な方が詠讚歌に取り組まれる場合もありますので、詠讚歌の仕組みを様々な人にとって利用できるように作り直すことも曹洞宗全体で考えていくべきだと思います。

藤田師／私が以前お世話になっていたお寺では、同行御和讃をピアノ伴奏でお唱えし梅花流に親んでもらいました。梅花流の持つ魅力を伝える努力をしなければ今の多様化した個人のセンサーには引けつ掛からないのかもしれない。今後は様々なものとコラボした企画を展開するのも良さそうです。

清水師／檀信徒の方々と一緒にお唱えして親しんでいただく。それは講員さん獲得の物凄い原動力になると思います。今後檀家さんが増える可能性のある都市部のお寺さんに協力してもらおうのも一つの手段かもしれません。その為には研鑽を積んで良いお唱えをし、

藤田清隆師範／昭和54年生まれ。平成17年から大本山總持寺で安居し、現在は長野県検校庵副住職を務めている。第20期師範養成所、平成31年令和元年度研修員。



興味を持ってもらうのが重要ですね。

藤田師／曹洞宗全体で講員さん獲得に繋がる間口を広げていく段階だと思います。詠讚歌に伴奏をつけた事例のように、法具を使わずとも誰もが梅花流の教えを口ずさむことができる手段を検討して、梅花と出会うきっかけ作りをする必要があると思います。

永井師／講員さん達は「私たちがこのお寺を支えている」という心が、我々が思っている以上に強いと思います。また、我々が檀家さん達に伝えきれなかった事も講員さん達が上手く伝えてくださる。お寺を最前線で支えてくださるいいパートナーとして、今後も講員さんを増やしていく必要があると思

います。きっかけはどうあれ、まずは檀信徒の方が気軽にお寺へ来てくださる環境づくりも重要ですね。

山田師／お寺に来てくれるようにすることは梅花流だけでなく曹洞宗全体の目標ですよ。お寺としては従来の「檀家」「梅花講員」のように、先祖供養を通して寺の行事に参画し、手伝いしてくださる方を求めがちですが、詠讚歌を聞くだけ、話を聞くだけの「仏教に興味のある方」を取り込んでいくための新しい取り組みを持つことが大事だと思います。経験の浅い師範、詠範でも出来る事は多いと思います。梅花流創成期は経験の浅い師範・詠範が積極的に活動されていたと聞いています。そこから自ら身口意を以て詠讚歌をお

唱えする事のありがたさ、ひいては仏祖の教えのありがたさに気付いてもらい、檀家さんや講員さんの増加に繋がればいいですね。

清水師／今後梅花流を行っていく上で最も重要なのは、ひたすら研鑽を積み、継続していくこと。その上で、これまで話してきた内容が生きて、聞き手が感動させると、興味を持ってもらう事が出来るのだと思います。全てに言える事ですが、継続ほど難しく、でも継続ほど大切なものはないです。我々は師範を目指したのであれば研鑽を積み、継続していくしかないと思います。それこそが講員さんになっていただく一番の手段だと考えています。

### それぞれの梅花流

最後に先生方にとっての梅花流とはどのような存在ですか？

清水師／私の生活の一部です。生涯かけて大切にしたいと思っています。

山田師／私にとっての梅花流は「出会い」です。色々な教えに出会い、様々な人に出会い、その出会いがあったか

らこそ今まで梅花流詠讚歌を続けてこられたのだと思います。

藤田師／梅花流とは一言でいうと「仏法の実践」です。師匠には「すぐに上手くならなくていい、悩んで乗り越えた経験が無ければ、悩んでいる方に寄り添ってあげられない」とよく言われますが、梅花流という叢林の中で、みんなでお互いに支え合い研鑽を続けることができる、これが梅花流の魅力ではないでしょうか。

永井師／私の書の先生が「私は書というものが必ず人の心を感動させるものだ」と信じて字を書く」とよく口にされています。その先生の言葉を引用させていただきます。私にとって梅花流詠讚歌というのは、必ず人の心を感動させるものだと思ってお唱えをする事だと思っています。

聞き手・文／広報委員 石原顕成

撮影／広報委員 深堀泰寛



永井真壽師範／昭和55年生まれ。平成15年から大本山永平寺で安居し、現在は長野県真浄寺住職を務めている。第20期師範養成所、平成31年令和元年度研修員。



宗務所大会の様子

三重県内の仏教讃歌を歌う寺族で構成される女声合唱団「マーヤの会」

その活動についてお話しを伺うべく代表のおおたのりこ太田紀子氏（三重県大連寺）を訪ねました。

―仏教讃歌について教えてください―

仏教讃歌とは、明治時代以後、西洋音楽を勉強した作曲家や仏教的素養を持つ文学者によって作られた西洋音楽の音階を使った音楽のことです。声明、御詠歌のような仏教各宗派に伝わる儀式的な音楽とは別なものです。

―マーヤの会結成のいきさつについて教えてください―

私自身、音楽の関係の大学で声乐を学びましたが、お寺に嫁に来るまでは仏教讃歌という存在は知りませんでした。子育ても一段落して、精神的に余裕が出来た頃、曹洞宗から駒澤大学の合唱団が歌う『仏教讃歌集』という1枚のCDが届いて、カラオケが入っていたので歌ってみようと思いましたが、当時、私が寺族会の役員をしていました。当時、私が寺族会の方に「一緒に歌いませんか」と声を掛けたのですね。2005年、お釈迦様のお母様の名前である、マーヤを頂戴し有志で結成されたのが、「マーヤの会」です。

梅花流布教の取り組み紹介

マーヤの会

INTERVIEW



―現在の活動状況について教えてください―

先日、滋賀県大津市内の青龍寺で婦人会と寺族会の総会があり、マーヤの会で参加させて頂きました。三重県内の授戒会や、晋山式でも歌ったり、臨済宗のお寺の行事には毎年呼んでもらったりしています。現在人数がフルメンバーで7人。徐々に動けるメンバーが減り大変な部分もありますが、年間3、4回は「マーヤの会」で活動しています。

―これまでの活動で特に印象に残っていることは何ですか―

曹洞宗東海管区駿河親睦会が主催する「国立駿河療養所 落語寄席」に出演した時ですね。その時に患者さんの代表の人が「こんな歌初めて聴いた、ありがとう」って言って涙を流して握手してくれましたね。普段涙を流す姿をあまり見せない人が



練習に集まったマーヤの会のみなさん  
右下→太田紀子氏 左下→小林みゆき氏  
右上→北澤仁美氏 左上→牧野由美氏

感動の涙を流していて、そういう時間を作ることができたのは良かったなと思います。

―今後どのような活動をしていきたいか―

必ず歌に入る前に解説を入れます。すると歌詞がすっと入り、理解が膨らみ、皆さんに喜んでもらえる。これはもう布教ですよ。ね。布教師にはなれなくても、伴奏入りの布教活動は出来ると思って、私もとても喜んでいます。声が続く限り仏教讃歌を歌い続けたいと思っています。



滋賀県大津市青龍寺での発表 2019/04/10

## 寄稿文 梅花講の魅力

「身、初心なるを顧みることなかれ」

青森県八戸市常現寺梅花講 山本佑介

現在、青森県で梅花講員として活動しております山本佑介と申します。この度、全曹青様より寄稿依頼をいただき、正直何を書こうかと悩みましたが、私が梅花講員として感じていることをお伝えしたいと思います。

私は今から4年前の冬に梅花の門を叩きました。入った当初、先輩梅花講員さんからは「若いのに感心だねえ」「仏さまも喜ばれますよ」とかわいがってもらい、緊張していた私は心がホッとしていました。

何故、御詠歌を始めようと思ったのか。私は高校を卒業後、介護施設でヘルパーとして就職し、現在も勤務しておりますが、その施設に入所している一人のおばあちゃんが私にこう言いました。

「佑介君はいい声してるねえ。あ、そうだ、御詠歌を始めてみませんか」

私は一瞬「えっ御詠歌？」と不思議に思いました。それもそのはず「御詠歌」というのも何か知らなかったのです。それからおばあちゃんは御詠歌について教えてくれました。おばあちゃんは昔、岩手県で梅花流のご詠歌を長年学んでいたとのことで私の声を聞いてこれと思ったのです。私

梅花流布教の取り組み紹介

# 梅花講の魅力

CONTRIBUTION



常現寺梅花講の練習風景

はちよつと興味を持ちインターネットで調べたところ、梅花流の全国奉詠大会の動画があり視聴してみると美しい歌声が私の心に響き、その時「やってみよう」と決心したのが始めようと思ったきっかけです。

私が通う梅花講は海に近く、のどかな町にあるお寺で、毎週日曜日に御詠歌の練習をしております。15名ほどの講員さんと日々詠道に精進しておりますが、私はいつ

も心の中で心得ている言葉があります。

これは大本山永平寺を開かれた道元禪師さまのお言葉です。ひと度、チャレンジしたからには「初心」を忘れることなく「初心」を貫く決意が必要であり、「困難から逃げようとする心が、また新しい困難を作り出す」。このことを肝に銘じたいという意味です。梅花流を通して私は常に「初心」の心でこれからも一仏両祖の御教えに従い励んでいき、梅花講員として活動してまいります。

合掌



山本佑介氏 普段は介護施設でヘルパーとして勤務されています

今後、日本の人口は著しく減少し、30年後には約3000万人少なくなるという推計が出ています。多くの寺院が存続の危機にすら直面する時代に、梅花講員が激減することは避けられない。教化の面で梅花流が果たしてきた功績を考えると、これが急激に縮小することは曹洞宗の趨勢に大きく影響する。「梅花流をどう残すか」ということまで本気で考えなければならぬ地

ぐ力が極めて弱かった実情がある。この内向的な在り方を変えなければ、衰退を見守るだけになるのではないかという危機感を抱いている。

平成29年度宗務庁主催の「禪を大きく会」では、魅せることを意識した型にはまらない梅花流をステージで展開し、観る者聴く者の心に沁みわたる詠道を届けることに成功した。自分では唱えなくても「梅花流が

梅花流の魅力伝えるには、実際にお唱えを聴かせ、心を動かしてもらうのが一番である。お唱えに出会える仕掛けや企画を展開し、裾野を広める活動をしなければならぬ。さらに、師範・詠範に対し、詠唱する機会の創出をもっと促し、心に響く詠歌を一人ひとりに届けるよう主導していく必要がある。講員となるかに関わらず、詠讃歌を聴きたいという人を増やすこ

とは、梅花流の命脈を保つことに有意義と考えている。

困難な局面ではあるが、講員増加の努力を続けつつ、30年後を見据えて詠道課は必要な施策を講じていく。今後とも、全国曹洞宗青年会の皆さまのご協力をいただきながら、詠讃歌を通じた布教教化を推進していきたい。この特集を機に、多くの方々から梅花流を聴いてくださることを願う。

# 詠道課の取り組みについて

## 曹洞宗務庁伝道部詠道課

点に、確実に来ているというのが実感である。

創立以来、梅花流との関わり方は、講員として登録し梅花流詠讃歌を学ぶということが基本となっている。そのため、詠道課の業務の大部分は梅花講員に関する事務であり、講員に向けた種々の活動を通して梅花流を維持発展させてきた。反面、外部一般に向けて梅花流を広める取り組みに注

「御詠歌を聴くと心が和む」というような潜在的な梅花人口を増やすこと、今後の梅花流の展望を見出せると確信できた企画であった。その経験を基に、詠道課で作製しているリーフレットにはQRコードを載せ、スマートフォンですぐに聴けるように工夫した。また、出版部で頒布している供養編のCDを案内し、自ら梅花流を求めるように仕向けている。

梅花流詠讃歌CD  
「供養編  
～御霊よ永久に安らわん～」

供養の場に相応しい御詠歌を収録したCDです

価格 1,000円＋税

- ①追弔御和讃
- ②新亡精霊供養御和讃
- ③無常御和讃
- ④追善供養御和讃
- ⑤報恩供養御和讃
- ⑥孟蘭盆会御和讃
- ⑦彼岸御和讃
- ⑧坐禅御詠歌（浄心）

お求めはフリーダイヤル **0120-498-971**

FAX 03-3768-3561 曹洞宗ブックセンターまで  
※送料・代引手数料別途

出版部で頒布しているCD

梅花流詠讃歌

追弔御和讃  
新亡精霊供養御和讃

曹洞宗

～御霊よ永久に安らわん～

追弔御和讃・新亡精霊供養御和讃のほか、ご供養の曲を収録しております。（全額¥1,000＋税）  
※CDのご注文は曹洞宗ブックセンターまで  
フリーダイヤル：0120-498-971  
お問い合わせ先 曹洞宗務庁伝道部詠道課(03)3454-5416

仏さまからのメッセージ

人は幸せを願って生きています。しかし、誰しも悩んだり、苦しみを体験しない人はいないでしょう。そうした時に心を支えてくれるのが、梅花流詠讃歌です。その歌詞には私たちが安らぎの世界へと導いてくださる仏さまの教え、想いが示されています。

聖号  
南無本師釈迦如来

QRコードを読み込むとお唱えの一曲を聴くことができます。

詠道課で作製しているリーフレット

# 特集をおえて

この度、梅花流の特集を組ませていただき宗務庁や師範、講員さん、仏教讃歌に取り組まれている方といった、様々な立場の方からお話を聞く事ができました。今回の特集を通して、それぞれの立場にそれぞれの考えがあることを知り、自身の視野の狭さを実感しました。

やはり、梅花流が年々衰退しているのは皆様も感じており、その中で各々に対策や今後の展望を持っていることを知りました。師範の先生方が仰っていた、人を集めるための新しい発信の仕方、講員さんになつていただくための新しい取り組み、これらを実行し浸透していけば第2次梅花流ブームを巻き起こせそうな面白い取り組みになると感じました。

また、仏教讃歌に取り組まれている「マーヤの会」も解説、伴奏、合唱と聴覚に訴えかける素晴らしい布教活動であり、歌を通して仏様の教えを世に発信していました。太田代表曰く、一般の方にも仏教讃歌

を聞いて感動される方は多いらしく、こちらにも新しい発信方法を見出すことが出来れば、一大旋風を巻き起こせる可能性があると感じました。

一方で、新しい手法を行えば様々な所から批判され、ネガティブな意見が出てきます。それらに揺さぶられる事のない強い信念のもと、清水師が言われた「ひたすらに研鑽を積み、ひたすらに継続していく」ことが重要であり、これから梅花流をはじめ仏教讃歌などの様々な布教活動を行っていく上で必要であると感じました。その先にこそ梅花流の活性化、ひいては曹洞宗の活性化があると思います。

結びに、今回の特集に快く協力して下さいました山田太壱師、清水道広師、藤田清隆師、永井真壽師、宗務庁詠道課大友博志師、マーヤの会代表太田紀子氏はじめ会員一同様、山本佑介氏にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

特集担当／広報委員 深堀泰寛

広報委員 石原顕成





## 「禅をきく会」開催

令和2年2月5日「有楽町よみうりホール」で曹洞宗宗務庁主催による「禅をきく会」が開催されました。第1部では愛知専門尼僧堂長の青山俊董老師に「道元禪師の修行観―喜心・老心・大心の三心―」という演題でお話を賜りました。厳しくも慈愛の溢れる語り口に参加者の皆様も聞き入っているようでした。

第2部では、映画『典座―TENZO―』が上映されました。初めて見る方や、遠方から来られた方も多く見受けられました。上映後には、曹洞宗総合研究センター専任研究員の宇野全智師を司会として、青山俊董老師、河川智賢映画事業実行委員長、富田克也監督の鼎談が行われ、映画の制作経緯や海外での反響について説明がありました。また、青山老師は僧侶の苦悩や葛藤を描いた点について、「私たち僧侶も皆様と同じ人間であり同じように悩み苦しむ。それをどう転化させるかが重要である」と示されました。



長時間ではありませんでしたが、とても充実した内容に会場を後にする参加者の顔にも満足感が感じられ、「このような機会があれば是非また参加したい」という声も多数いただきました。

文／広報委員 秋元憲裕

## 阪神・淡路大震災慰霊法要

令和2年1月17日、今年も「阪神・淡路大震災慰霊法要」が兵庫県神戸市で厳修されました。

前日の1月16日、神戸青年仏教会会務所で、同会理事長の螺澤明法師が導師を務め、「阪神・淡路大震災速夜法要」が行なわれました。

当日、震災の起きた午前5時46分から神戸市内の「あわせの地蔵」「たかとり教会」で「阪神・淡路大震災慰霊法要」が厳修されました。「あわせの地蔵」では幅広い年代の方々が焼香の列を作り、震災の記憶が確かに受け継がれているのが感じられました。「たかとり教会」ではいくつものキャンドルが灯され、荘厳な雰囲気の中、様々な宗教者が参列し、全曹青からも原会長はじめ4名が参加いたしました。

当時を知っている僧侶もまた、真摯に慰霊法要を継続していきながら新しい世代に継承していかなければならない、と感じさせられました。

文／広報委員長 田ノ口太悟

# 東日本 大震災 慰霊の 想い



2011年3月11日14時46分。

東北・関東地域を東日本大震災が襲いました。その被害の規模は甚大で、被災地域には今も震災の影響が残っています。

全曹青では毎年、東北各地で行われる慰霊法要に積極的に参加してまいりましたが、今年も残念ながら新型コロナウイルスの影響で不参加となりました。

代わりに、会員のそれぞれが自分のお寺で慰霊法要を勤めることといたしました。

その模様、慰霊への想いを写真としてご報告いたします。





## これまでの世界仏教徒 青年連盟事業報告

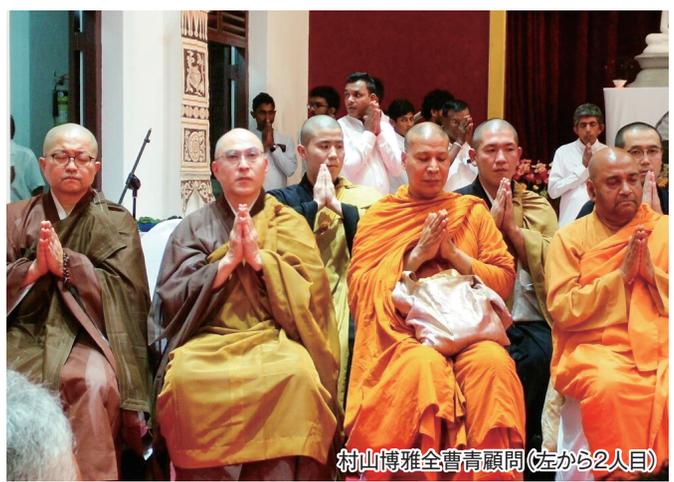
2018年11月、大本山總持寺での盛大な記念式典も記憶に新しい、世界仏教徒会議日本大会にて、全曹青が加盟する全日本仏教青年会（以下全日仏青）は、会長を含め6名という、過去前例を見ない最多人数の世界仏教徒青年連盟（以下WFBY）役員を輩出しました。そのうち全曹青は、会長、副会長、顧問、事務局次長、会計次長



スリランカ100周年

の5役職を務め現在に至ります。

この1年半の間、WFBYは活発に活動してきました。現体制に入りすぐ開かれたバンコクでの世界仏教徒大学SDGsシンポジウムや、パリのユネスコ本部ビルで開催された世界平和会議をはじめとする様々な国際事業への参画や運営、表敬訪問や各国記念式典への参加、度々開かれるWFBY（世界仏教徒連盟）並びにWFBYの執行役員会議等を通じて、各国の仏教徒との交流をさらに深めてまいりました。特に、マレーシア仏教青年会とWFBYを通じて日本で開催した国際交流研修や、バンコクのWFBY本部ビルで開催した参禅布教研修会の成功は、これからの曹洞宗のアジア布教の大きな推進力の一つになったと考



村山博雅全曹青顧問(左から2人目)

えています。

新型コロナウイルスのパンデミックにより、さらに慎重な配慮が必要な国際事業ゆえに、多くの事業が延期・中止されてきましたが、SNSやWEB会議等を駆使して、その大きな制約の中にも、成すべき活動を作り上げています。諸先輩ご老師並びに会員諸師の皆様方に於かれましては、今後ともご指導ご鞭撻、ご理解ご協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

文/WFBY会長 全曹青顧問 村山博雅

## タイ・バンコク禅研修



本プログラムはWFBYに11ある委員会の一つ、仏教ホスピタリティ事業委員会が以前より大きな関心を寄せていた「坐禅」を通して曹洞禅の魅力をタイ国へ、そしてアジア社会に発信し、さらなる曹洞宗の国際的な宣揚をはかる為に実施いたしました。定員30人のところ50人を超える参加をいただき、盛会裡に円成いたしました。

日本から講師として曹洞宗総合研究センター教化研修部門副主任研究員を務める南原一貴師を招聘し、村山博雅師、松岡広也全曹青国際委員会特別委員、大橋康道全曹青国際委員会副委員長の4人で坐禅、写経、飯台指導を行いました。

今回参加をした仏教青年は曹洞禅をまっすぐな心で受け入れ、タイ国のメディア・インターネットでは行われない警策や、考え方の異なる只管打坐の教えをそれぞれが考え、受け入れ、実践をしていただけました。このことは、タイ国に、日本仏教への興味や禅の教えを学びたいと考える多くの若者がいることの表れであると考えます。

今回のプログラムを通して曹洞禅の深い教えをタイ国へ広く発信することが出来たと思います。そしてタイ国のみならずアジア社会へさらに広く曹洞禅の宣揚をはかる、貴重なきっかけになったと確信いたします。

文/国際副委員長 大橋康道

# 災害復興 支援部

NEWS LETTER

## ニュース レター

### PFA研修会

「地域の力のために、被災した方の回復を助ける『適切な対処行動・支援方法』を身につける」に参加して

2012年に日本に導入されたWHO版PFA (Psychological First Aid) 研修会に参加させていただきました。PFAは苦しんでいる方や支援が必要と思われる方に、同じ人間として行う人道的な支援の仕方を意味します。

研修は東北福祉大学教授の齊藤仙邦師、同じく東北福祉大学特任研究員の渡邊圭氏、曹洞宗成安寺住職の木村尚徳師、国立精神・神経医療研究センター研究員の大沼麻実氏を講師に迎え、行われました。

研修会ではアイスブレイクを交えながらの講演でPFAの内容や活動原則をお話いただき、被災時等のシーンに合わせてのロールプレイ、ワークショップを行い受講生同士で意見を交しました。「準備・見る・聞く・つなぐ」の原則に基づいての研修会では受講生が苦悩しながら懸命に取り組んでおりました。相手の為に自分に今何ができるのか、皆様真剣に考えておられました。災害時以外でも相手に対し、思いやりを持った活動をしていきたいと思っております。

### シンポジウム

「災害支援のこれから

〜共に学び、新しい未来をつくる〜」開催



2月4日、曹洞宗檀信徒会館で曹洞宗宗務庁、曹洞宗婦人会、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（以下SVA）、全国曹洞宗青年会（以下全曹青）によるシンポジウム「災害支援のこれから〜共に学び、新しい未来をつくる〜」が開催されました。

映像上映「共に生き、共に学ぶ〜カンボジアの僧〜」では、カンボジアの社会の変遷、人々と寺院との関係の変化、SVAの活動の歴史などについて学びました。

「災害時における寺院の役割」では、大阪大学大学院人間科学研究科の稲場圭信教授が「耐震性、政教分離の問題など課題はあるが、広い畳敷きの空間や炊事場、豊富な物資を備えている神社や寺などの宗教施設は大規模災害時の避難場所として、大きな役割を果たすことができる」と説明しました。

また、「平成30年西日本豪雨災害／令和元年台風19号災害被災者支援の成果と課題」では、宮入真道師（曹洞宗長野県第一宗務所）、本土悠悟師（四国地区曹洞宗青年会）、渡邊珠人師（SVA）、原田恵一災害復興支援部事務局長（全曹青）が災害支援活動の報告や今後の課題について話し合いました。

文／災害復興支援部事務局長 原田恵一



カルタゴ国際映画祭オープニングセレモニー

# 典座

TENZO

映画『典座—TENZO—』

## 展開報告

映画『典座—TENZO—』は、令和2年1月にオランダで開催されたロッテルダム国際映画祭とフィンランドのヘルシンキドキュメンタリー映画祭へ出品され、カンヌ国際映画祭に続いて海外での快挙を遂げました。国内では全国各地の映画館で上映され、富田克也監督と一緒に舞台挨拶の旅に行ってきました。そこで積極的に寄せられた質問や感想など、各地での観客の生の声をお届けいたします。

### お寺と関わりがなかった人へ届く想い

映画『典座—TENZO—』は映画館での公開が始まり、全国のミニシアターを中心に上映活動を行なっています。各映画館では上映初日に舞台挨拶が用意されています。富田克也監督をはじめ脚本家、出演者が各地を巡ってきました。上映後の舞台挨拶では映画製作に至った経緯や、この映画に込めた想い、時には撮影の裏話など、ス



曹洞宗山梨県青年会と左右回竹の会

クリーンだけでは伝えきれない思いの文を各々が観客へと話します。そして必ず終盤には質疑応答の時間を設けます。仏教には質疑応答の時間がない本物の僧侶が出演する映画ですから難解な部分があります。それ故にこの質疑応答の時間は実に大切なひと時です。観客の目にはどの様に映ったのか、または私たちが伝えたいことはちゃんと伝わったのか。

「私はこれまで仏教にもお寺にも全く関わりがありませんでした。この映画も観に来る予定ではなかったんです。実は私の友人が今体調を崩していて外に出ることができないから、自分の代わりにこの映画を観に行ってくれと言われて来ました。青山老師の言葉の一つ一つ、生きることの大切さ。何か救われた気がします。このことを

早く友人に伝えたいです」と、涙ながらに語る女性の言葉に、私たちもどこか救われた気がしました。  
青山俊董老師は「真理は一つ。切り口の違う争うな」と仰います。同じものでも人によって観る角度や感じ方など様々な切り口の違いがあります。しかし仏法という真理は変わりません。私たちも映画という初めて経験する機会のおかげで正直不安があります。しかし、映画を通して仏教を求めている方々が沢山いることにも気づかせてもらいました。そのご縁を未来へと繋げていくことがこの映画を上映していく大切な役割だと感じました。

文／映画事業実行委員長 河口智賢



『僕らの七日間戦争』の菅原浩志監督と

# 総合企画委員会からのごあいさつ

全曹青 Real Voice



委員長 宮本昌孝

山口県曹洞宗青年会より参加させていただいております総合企画委員長の宮本昌孝と申します。総合企画委員会は各管区大会でのブース活動など、皆様と接する機会が多い委員会でもございます。今期スローガン「今を創ろう 明日を咲かそう」が円成しますよう、皆様の声に耳を傾け、委員一同で邁進してまいりたいと存じます。何卒、よろしくお願い申し上げます。



委員 伊藤圭昌

宮崎県曹洞宗青年会より参加させていただいております、伊藤圭昌と申します。自坊は、宮崎県北の深谷と橋で有名な日之影町にございます。故郷のような豊かな緑、「慈愛の心」で日々精進しております。甚だ未熟者ではございますが、よろしくお願いたします。



委員 鳥崎慧覚

曹洞宗北海道第三宗務所青年会より参加させていただいております。全曹青で学ばせて頂いた事を北海道に還元できるように、しっかりと勉強させていただこうと思っております。初めての参加ですので不慣れな点が目立つと思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



委員 森野大乘

兵庫県第二宗務所青年会より参加させていただいております森野大乘と申します。皆様に助けを得て、なんとか1年間、委員会活動を務めました。

これまで学んだことをしっかりと生かし、少しでもみなさまのお役に立てよう精一杯務めたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。



委員 有田友光

四国地区曹洞宗青年会から参加しています。総合企画委員会に拾っていただいて、はや3期目。ギリギリ20代だった5年前が懐かしい…今期は同級生・同安居と同じ委員会になり今まで以上に楽しい2年間になりそうです。なるといいなあ。



委員 柴田承寛

長野県第一青年会より参加させていただいております柴田承寛と申します。前期は全日仏青特別委員会に参加しておりました。今期は総合企画委員会として気持ちを新たに邁進していく所存です。委員会内では会計担当として務めております。よろしくお願い申し上げます。



委員 三吉泰之

山形曹洞宗青年会から参加させていただいております三吉泰之と申します。全曹青に参加し「縁」や「人とのつながり」に驚き、感謝しております。全曹青での出会いや、たくさんの経験を通して、色々な考え方や見方というものを吸収し自分自身成長していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



委員 前島勇哉

曹洞宗静岡県第一宗務所青年会より参加させていただいております。前島勇哉と申します。

「敢為邁往」全曹青の発展の為に尽してまいります。

# 「過疎」と向き合う

曹洞宗の「いま」

## 【過疎問題対策の歩み】

曹洞宗寺院は全国に約14,500カ寺存在し、そのうち約3割にあたる4,000カ寺以上は過疎化の進行する地域に立地しています。近年、寺院を取り巻く過疎問題は各種メディアでも取り上げられることが多くなってきましたが、住職不在の状態が長く続く寺院や伽藍が荒廃した寺院など、様々な事案に対して早急の対応が求められています。

曹洞宗においても、宗議会で過疎問題への対応を求める提案が幾度となくなされ、2019年4月には曹洞宗の過疎問題に関する事案に対応する「過疎地域等における曹洞宗寺院の問題に関する対策準備室（過疎対策準備室）」が立ち上げられ、2020年4月より「過疎地寺院振興対策室」と名称が改められました。現在、過疎地域に立地する寺院の調査などが実施されています。今号では各種調査や全曹青で実施した過疎問題に関する意識調査で問題提起されることが多くあった「寺院後継者

不足」・「離郷檀信徒の増加」・「法人収入の減少」について取り上げていきたいと思います。

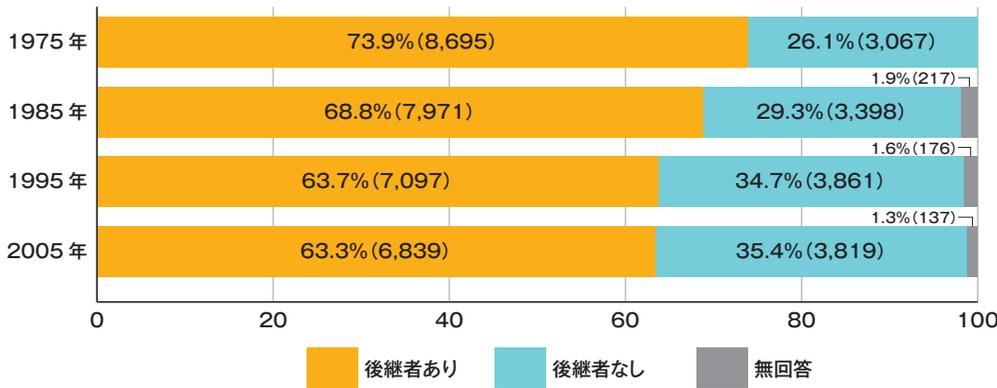
## 【寺院後継者不足】

曹洞宗宗勢総合調査（2015年）によると、今後も寺院の「護持運営を続けてほしい」と回答した約9000名の住職のうち、2割以上は後継予定者がいないと回答しています。また曹洞宗寺院の約3割は兼務寺院とされています。もちろん数字だけではなく、多種多様な事情を考慮しなければなりません。他業種でも後継者不足が問題視されている現状を鑑みると、寺院も同様の問題を抱えていることが推測されます。

曹洞宗においては曹洞宗寺院後継者相談所において「ほほえみの集い」が開催され、また京都府宮津市の智源寺<sup>ちげんじ</sup>専門僧堂では後継者を求める寺院住職の相談に対応する窓口をホームページ内に設けています。寺院の後継者は、法灯の継承者でもあります。過疎問題

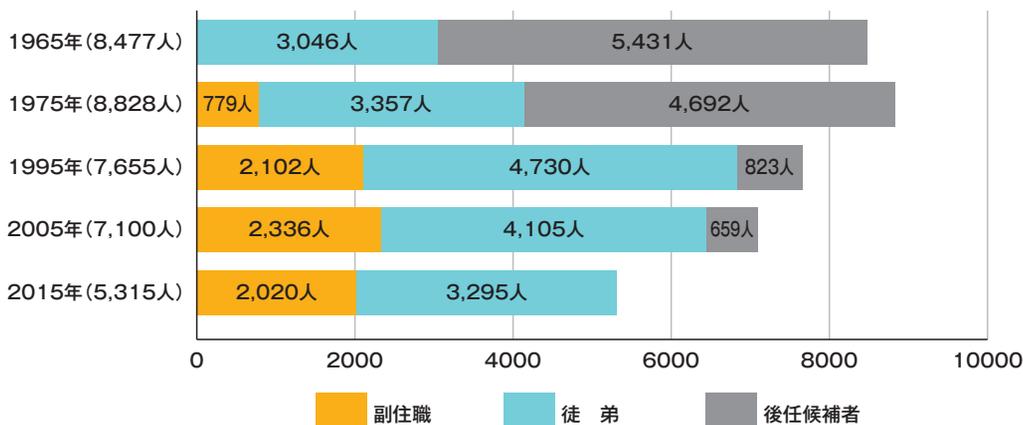
に限らずとも、後継者の育成は宗教教団にとって最重要課題と云ってよいかもしれません。

図1 後継者有無の推移



※「宗勢1975」「宗勢1985」「宗勢1995」「宗勢2005」より

図2 寺院後継の可能性を有する僧侶の人数



※「宗勢1965」「宗勢1975」「宗勢1995」「宗勢2005」「宗勢2015」より

図1・2 ※澤城邦生 (2019) 「曹洞宗における後継者問題—得度年齢の分析を通して—」宗学研究紀要 32 論文引用紹介



智源寺  
ホームページ

<https://www.chigenji.com/jimu/koukeisha.html>



【離郷檀信徒の増加】

菩提寺や墓地がある故郷から離れる檀信徒も年々増加傾向にあると推測されます。全曹青で実施した過疎問題に関する意識調査の中にも、遠隔地の檀信徒への対応について悩みを抱えている僧侶の回答が記載されていました。どうすれば遠隔地に移住した檀信徒と寺院との繋がりを保つことができるのか。また葬儀や法要の際にはどのように対応したらよいのか。その苦悩は絶えません。

檀信徒の立場からしても、遠方の墓地へ赴くより、近郊に新しく墓地を建立し、そちらで先祖供養を続けていきたい。そういった理由から改葬を行い、転檀、離檀へと話が進展するケースも年々増加してきたように感じます。

曹洞宗においては教化部企画研修課主催により「東京供養―芝絡（しばらく）―」が2018年に企画・実施されました。これは首都圏在住の檀信徒を抱える地方寺院を対象に、曹洞宗檀信徒会館（研修道場）を無償で貸し出し、法要会場として提供するものでした。同様の取り組みは浄土真宗本願寺派でも企画・実施され、真言宗智山派では檀信徒と菩提寺との間を宗務庁が取り持つといった施策もなされています。

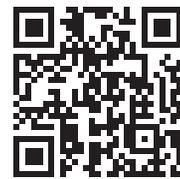
【法人収入の減少】

寺院の多くは檀信徒が執り行う各種法要により納められる布施を法人収入



真言宗智山派  
ホームページ

<https://chisan.or.jp/funerals-and-legal-matters/>



※総務省  
都市部への人口集中  
大都市等の増加について  
[https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000452793.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000452793.pdf)

の軸としていきます。過疎化により檀信徒が減少すれば、当然各種法要を執り行う機会も減り、法人収入は減少します。「布施」のあり方を鑑みれば、偏った考え方であることは重々承知しておりますが、現代社会において寺院という存在を維持運営していくために法人収入は必要不可欠です。

包括法人「曹洞宗」も財源の多くを一般寺院（被包括法人）からの賦課金（宗費）によって確保しています。今後、一般寺院の法人収入が減少すれば包括法人「曹洞宗」としての財源確保も困難となるでしょう。現状、賦課金を捻出することは可能でありながらも、中長期的に見た伽藍の維持費用の捻出は困難であるという現場ならではの苦悩も存在します。目の前の現状を正しく把握し、その現状の中で成り立つ仕組みづくりも必要となるでしょう。

過疎区分別にみた法人収入（宗勢 2015）

	低収入寺院	中収入寺院	高収入寺院	合計
非過疎地区	4933ヶ寺 (56.1%)	1881ヶ寺 (21.4%)	1974ヶ寺 (22.5%)	8788ヶ寺
過疎地区	2576ヶ寺 (68.6%)	754ヶ寺 (20.1%)	424ヶ寺 (11.3%)	3754ヶ寺

※相澤秀生（2019）「過疎地域における曹洞宗寺院の現成」『岐路に立つ仏教寺院』相澤秀生・川又俊則編著。法蔵館 55 頁より一部抜粋・改変

「ほほえみの集い」「東京供養―芝絡（しばらく）―」「活き活き寺院1寺院1事業の手引き」など、過疎問題に対応するさまざまな施策を曹洞宗としても実施しています。もちろん過疎問題は曹洞宗のみならず他宗派教団も喫緊の課題として取り組みを進めています。今後はそうした他宗派教団の過疎問題対策もご紹介させていただきたいと思っています。ぜひ情報共有の一助としていただければ幸いです。

文／過疎問題担当庶務

堀江紀宏  
中野孝海

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。  
この度もご協力いただき誠に有難うございました。

◆福島県

46 龍傳寺 様  
93 長光寺 様  
104 成願寺 様  
121 長泉寺 様  
156 大龍寺 様  
226 常隆寺 様  
267 東禪寺 様  
352 大同寺 様  
377 宝積寺 様

◆宮城県

212 祥雲寺 様  
228 瑞川寺 様  
281 光明寺 様  
306 陽山寺 様  
324 光嚴寺 様

◆岩手県

17 清水寺 様  
23 清雲院 様  
186 大光寺 様

◆青森県

100 澄月寺 様  
101 聖福寺 様  
112 法蓮寺 様  
119 大安寺 様  
138 安樂寺 様

◆山形県1

90 無量寺 様  
181 祥雲寺 様  
208 普門寺 様  
238 西来院 様

◆山形県2

337 満福寺 様

◆山形県3

468 宗傳寺 様  
563 洞春院 様  
634 乗慶寺 様  
641 宝泉寺 様  
737 長秀寺 様

◆秋田県

76 藏堅寺 様  
85 寶圓寺 様  
261 見性寺 様  
353 安養寺 様

◆北海道1

45 延命寺 様  
484 禪福寺 様  
488 清泉寺 様

◆北海道2

102 興禪寺 様  
181 永祥寺 様

◆北海道3

226 大昭寺 様

コウタクジ様

インターネット  
受付分

◆千葉県

12 高根寺 様

◆島根県2

5 地福寺 様

◆秋田県

265 倫勝寺 様

ボ ラ ン テ ィ ア 基 金 感 謝 録

2020年1月1日～2020年3月31日取扱い分

神奈川県 宗久寺  
静岡県 玉泉寺  
岐阜県 全昌寺  
三重県 地藏院  
広島県 光禪寺  
広島県 伝福寺  
山口県 山口県曹洞宗青年会  
鳥取県 吉祥院  
島根県 いずも曹洞宗青年会  
島根県 石見曹洞宗青年会

徳島県 城満寺  
愛媛県 興雲寺  
長野県 圓福寺  
宮城県 光明寺  
岩手県 中興寺  
山形県 朝日町商工会女性部  
秋田県 藏堅寺  
北海道 大龍寺  
北海道 曹洞宗北海道第二宗務所青年会



戦略に合ったノウハウを提供し、  
企画～提案をサポート致します。

様々なご要望に  
お応えします!



記念誌・カタログ・ポスター・パンフレット・チラシ・  
DM・名刺・封筒等、様々な印刷を承ります。



ホームページを企画～  
提案・制作いたします。



お客さまに代わり封筒などに、  
封入・セット作業を致します。



発送される際の宛名ラベルの  
出力～発送作業も承ります。

**SBP 創文社印刷株式会社**

〒420-0812 静岡県静岡市葵区古庄二丁目7番16号

TEL.054-265-0870  
FAX.054-265-2180 <http://www.sobunsysa.co.jp>

両大本山御用達  
梅花流法具販売指定店

法衣・装束・荘厳・神仏具・贈答用記念品

**梅金商店**  
株式会社

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

(本 社) 〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号  
(大須交差点東北側)  
TEL (052) 241-0901(代表) FAX (052) 241-1904

# 賛助費浄納御芳名簿

2020年1月1日～2020年3月31日取扱い分

## ◆東京都

101 心月院 様  
177 清巖寺 様

## ◆神奈川県1

258 大應寺 様

## ◆神奈川県2

77 龍寶寺 様  
147 宗祐寺 様

## ◆神奈川県

中野東禅 様

## ◆埼玉県2

248 長泉寺 様  
317 宗福寺 様  
336 永福寺 様

## ◆群馬県

99 龍傳寺 様  
194 善宗寺 様  
311 泉通寺 様

## ◆栃木県

94 天性寺 様

## ◆茨城県

197 長龍寺 様

## ◆千葉県

1 總寧寺 様  
2 宗胤寺 様  
7 満蔵寺 様  
22 廣壽寺 様  
24 仁守寺 様  
37 龍泉院 様  
90 等覚寺 様  
121 寶林寺 様

## ◆山梨県

162 法久寺 様  
507 満福寺 様

## ◆静岡県1

26 宝珠院 様  
109 玉泉寺 様  
175 霊山寺 様  
461 心岳寺 様  
464 正泉寺 様  
551 成道寺 様

## ◆静岡県2

332 龍雲寺 様  
346 東大寺 様  
359 禅福寺 様  
362 福泉寺 様  
363 観音寺 様

## ◆静岡県3

678 宗心寺 様  
832 善勝寺 様  
1302 可睡斎 様

## ◆静岡県4

1017 龍泉寺 様  
1065 高林寺 様

## ◆愛知県1

7 全香寺 様  
55 長全寺 様  
70 慈濟寺 様  
101 成福寺 様  
139 祇園寺 様  
313 長松寺 様  
375 春江院 様  
605 天徳寺 様  
635 永澤寺 様  
1256 大泉寺 様

## ◆愛知県2

684 花井寺 様

## ◆愛知県3

1106 寶鏡寺 様

## ◆岐阜県

162 清楽寺 様  
240 林陽寺 様

## ◆三重県1

7 海蔵寺 様  
37 四天王寺 様  
132 地藏寺 様  
269 大蓮寺 様  
276 地藏院 様  
287 桃源寺 様  
316 劔光寺 様

## ◆京都府

33 興聖寺 様  
46 榮春寺 様  
228 頼光寺 様  
236 善光寺 様  
367 福昌寺 様  
389 萬福寺 様

## ◆大阪府

69 永興寺 様  
98 吉祥院 様  
107 實相院 様

## ◆奈良県

58 久松寺 様

## ◆和歌山県

35 高松寺 様

## ◆兵庫県2

173 瑞雲寺 様  
228 豊樂寺 様

## ◆岡山県

1 円通寺 様  
3 長川寺 様  
29 大通寺 様  
131 渡濟寺 様

## ◆広島県

7 伝福寺 様  
22 光禅寺 様  
34 吉祥寺 様  
46 双照院 様  
48 真観寺 様  
86 西金寺 様

## ◆山口県

4 寶蔵寺 様  
72 真福寺 様  
159 海蔵院 様  
190 亨徳寺 様  
225 光東寺 様  
243 覚天寺 様

## ◆鳥取県

82 吉祥院 様  
146 妙樂寺 様  
167 同慶寺 様

## ◆島根県2

16 洞光寺 様  
50 妙岩寺 様  
63 龍覚寺 様  
70 完全寺 様  
157 慶用寺 様  
187 養善寺 様

## ◆徳島県

26 城満寺 様

## ◆高知県

18 藤林寺 様  
24 報恩寺 様

## ◆愛媛県

113 西禅寺 様

## ◆福岡県

25 南林寺 様

## ◆長崎県1

22 圓通寺 様  
78 宝泉寺 様

## ◆佐賀県

117 本光寺 様  
118 養寿寺 様

## ◆熊本県2

78 地藏院 様  
122 國照寺 様

## ◆宮崎県

21 太平寺 様  
30 恵超寺 様  
54 善栖寺 様

## ◆長野県1

86 圓福寺 様  
213 盛隆寺 様  
243 廣徳寺 様  
265 蕃松院 様

## ◆長野県2

400 長久寺 様  
566 広明寺 様  
595 檢校庵 様

## ◆福井県

47 瑞祥寺 様

## ◆新潟県1

321 種月寺 様  
350 定光寺 様  
358 円光寺 様  
496 長樂寺 様

## ◆新潟県3

530 花栄寺 様

## ◆新潟県4

38 興泉寺 様  
189 東泉寺 様  
238 光浄寺 様

この度、日本のみならず世界各地で新型コロナウイルスの感染が拡大しています。全曹青の主催行事もその影響を受け、それぞれ中止・縮小のやむなきに至っております。

亡くなられた方々のご冥福と感染された方々の快復、そして人々の生活が一刻も早く日常へと戻らんことをご祈念申し上げます。

『アプリソウセイ』内、法要公務帳「得度式」「晋山結制準備」を追加の為鋭意作成中

全曹青公式アプリ『アプリソウセイ』

この度、教化委員会では全曹青公式アプリ『アプリソウセイ』内、法要公務帳の拡充を図るべく前期までに作成した既存の「本尊上供」・「晋山結制」・「本葬」に続き、「得度式」・「晋山結制準備」を追加作成する運びとなりました。

内容は『昭和改訂曹洞宗行持規範』を基に作成中です。従来通り、差定や配役から検索し、簡単に解説を読むことができ、さらには、文章でわかりづらい場面には写真や動画を用いて一目で理解できるように工夫いたします。

得度式は修行する機会が少ないからこそ、我々僧侶が行ずる際に使いやすいように配慮しております。また、既存の「晋山結制」に準備を追加することにより、さらなる充実を図ります。なお、「晋山結制準備」には、様々な場面で使う拝請法も含む予定です。

まだお使いでない方も、この機会に是非『アプリソウセイ』をダウンロードしていただき、行持の際、または、自身の研鑽の資料としてご活用ください。

なお、細かな進退等は、地域やそれぞれの寺院により差異があります。その点をご留意の上、ご利用いただければ幸いです。 文／教化委員長 森井宗淳



「法要公務帳」作成の様子



公式 HP『般若』  
アプリソウセイ  
ご案内ページ

青年僧侶の映画レビュー

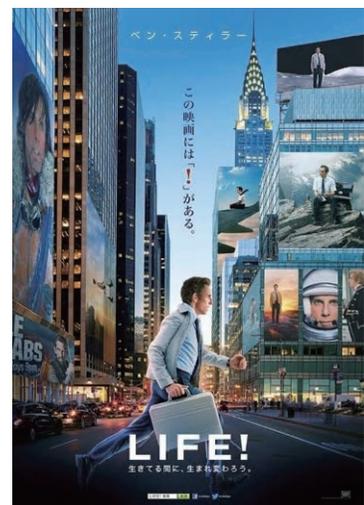
この映画のあらすじは、主人公が編集を担当する写真雑誌『LIFE』が経営難により廃刊をむかえるにあたって、写真家からネガにある25番の写真を最終号の表紙に使ってほしいと言われます。しかし、ネガを見ても、25番の写真だけが見つかりません。このことをきっかけに一歩踏み出すことに勇気を出せなかった主人公が1枚の写真を探す旅によって、人生を変えていくというものです。

現実的に新しい挑戦をすることはなかなか容易なことではありません。こうした際に最初に思い浮かぶのは失敗や不安だからです。だから一歩も踏み出さずに終わるという経験は誰にでもあると思います。しかし、自分の人生だけで見える世界は100歳まで生きるとしても限られていますし、様々な地域や境遇の人と関わることで人生の幅が広がると私は思います。そこで失敗しても、それは自分にとって後退ではなく、未来へつなげる前進に変えればいい。

新しい挑戦に年齢は関係ないと思います。もしかしたら、その挑戦が人に勇気を与え、未来を変えるかもしれません。

昨年から全国曹洞宗青年会に参加させていただきまして、6月で1年となります。これからも挑戦し続けたいと思います。

担当／広報委員 松崎 清文



映画『LIFE!』2013年／アメリカ

表紙の話

僧侶から手渡される梅花を撮影いたしました。受け継がれる梅花流の、これからの発展をテーマとしました。

撮影地：広島県尾道市  
撮 影：広報副委員長 菅 悠生